



全国連合退職校長会

会報



巻頭言

「関係諸団体との連携」を考える

副会長（東京地区） 多田 丈夫

東京都退職校長会は、「綱領」の中で「関係諸団体との連携」を事業目標の一つに掲げている。全連退も目標の一つに「教育の諸条件の整備・充実」を掲げ、より良質な教育環境の実現をめざし、政府・中教審等への要望や意見具申をするとともに、霞が関三省との連携を深め、日本の教育の振興と支援に多大な役目を果たしている。

ここで、東京都退職校長会の「関係諸団体との連携」の実例を紹介する。一つは、去る2月2日に恒例の「東京都教育委員会（以下、都教委）」と東京都退職校長会との懇談会が開催された。教育庁人事部の窓口に、予め、オリンピック・パラリンピックに向けての教育施策、都のコミュニケーション・スクールの設置

また、地域住民や保護者等が学校運営や教育活動に直接参画し、意見を述べ協議する、いわゆる「コミュニケーション・スクールの設置」が、全国の公立義務教育学校の2661校（90%）（平成28年4月現在）であることに比して、東京都の設置状況は15.4%との進捗状況が公表された。これらの報告から今の学校教育の現状と今後の変化を真摯に学びながら、都教委との2つの委託事業の推進、全連退との教育懇談会、東京都公立園長会・校長会5団体との教育懇談会、教育フォーラム東京2017、新年懇談会等々が開催され、各界との連携強化が図られている。さらに、これらの様々な企画が関係諸団体との絆を強める場となっている。

私は、「存在感ある退職校長会」が問われる昨今、組織力を高め「関係諸団体との連携」を強め、課題を共有し、会員の知見と経験を存分に生かした「豊かな関係づくり」に力を尽くすチャンスと改めて考えている。

提言



存在感のある

退職校長会に

副会長 (四国) 後藤忠雄

昨年10月6日、江戸東京博物館会議室で、全連退に加盟している全国52団体の事務局長会が開催された。私も副会長の一人として出席をする機会が与えられ、グループ協議にも参加させていただいた。

グループ協議では、本部から提案された「期待感が持たれ、存在感のある退職校長会を目指す活動について」を共通課題として、参加52名の事務局長が9グループに編成され、限られた2時間、各自、団体の取り組みを発表し、それをもとに協議が行われた。

一つは、少子高齢化が進む中で、学校の統廃合がなされ、退職校長も漸減状態が続いている。このような状況のもとで、会員確保は、どの団体も苦慮してい

る。100%加入とは、いかないまでもせめて80%の方が加入するよう早い時期からの働きかけが必要である。現職校長に会報を配布する、交流会の回数を増やす等の取り組みが必要である。

二つは、地域の実情や学校の要望を踏まえた「教育支援」に積極的に取り組むことである。退職校長が今まで培ってきた知識や経験を地域の為に、子供たちのために提供することは、己自身の生きがいであると同時に、団体存在感の一つの取り組みである。

三つは、県本部と郡市支部との関係である。大半は県の総会や事業部会に支部の代表者が数名出席しているのが現状である。今後は、逆に郡市支部の総会や研修会へ、本部の役員がその都度足を運ぶようにすれば、本部と支部の意志の疎通もより円滑になり会員の意向も把握でき、活動にも効果が上がると思う。

以上、三つの事柄を述べたが、今後、それぞれの団体が活性化され、魅力ある団体として、存在感のある退職校長会になる事を願って止まない。

実践研究の発表の場を

副会長 (北海道) 永峰 貴

京都市立中学校退職校長会発行の「清交会誌47」が届いた。

読んで感想を述べよというのである。A4判148ページもの冊子を毎年発行し続けるエネルギーに、まず驚かされた。

この会誌の特徴は、「教育研究と実践」「情報交換と交流」「活動記録と報告」の三部構成になっていることである。

「教育研究と実践」は、筆者の研究実践記録で、主張や問題提起が数ページにわたって展開されている。データを基に論を進めた物や事例の様子が分かる写真を添えた物もある。いじめ等今日的課題についての主張にも共感できる。まさに、研究論文集なのである。

「情報交換と交流」は、もう少し自由に情報交換をというこ

とのようなだが、千年の古都らしい雰囲気漂っていて、歴史の重みを実感させられる。

また、旅行記も体験談も単なる徒然の文ではなく、現実を直視した本気の主張が盛られている。

「会員の福祉と親睦を図る」ことを目的とする本会では、どの支部でも会報が発行され、活動の報告や様々な情報、そして会員の近況等が掲載されている。ところが京都のそれは、実践研究の発表の場となっているのである。知的好奇心の旺盛な人が教師には多く、今なお自己のテーマと向き合っている方がこんななおられるのだ。だが、これは、京都に限ったことではないはずである。これからの生活を豊かに生き抜くために、知的好奇心を研き続けるためにも、研究や主張を発表できる場を用意することも大事な役割である。そのことに気付かせてくれたことに感謝したい。



中国地区

期日 28年10月20日・21日
会場 松江市エクセルホテル
出席者 61名

今回から中国地区情報紙を
刊することに伴い会則を一部改
正し、研究発表に関しては「
よりよい退職校長会を求めて
」との研究主題でスタートし
ました。今後は、概要を情報紙
で知ることが出来る事も有意義
だと思っています。

5団体の実践発表の概要

- ① 「三次支部の活動を通して」
広島県高等学校退職校長会
今後の課題・参加者の減少・
少子高齢化、過疎化における
高校教育の充実発展・特色あ
る高校教育への模索・現職校
長会と教育課題の連携。
- ② 「中高一貫校との連携の可能
性を探る」岡山県高等学校退
職校長会 今後の課題・連携
は形式的になりがちで双方に
負担感が蓄積してはならない。

広く意見交換の機会を設定し
現場のニーズを把握し具体的
な検討をしたい。

- ③ 「区会活動の充実と活性化を
目指して」広島市退職校長会
今後の課題・叙勲・広報、福
祉、研修、教育支援の五委員
会を組織し活動しているが会
場確保が難しい・郵送料負担
が大で私的配付が多い。・入
会者が減少している。
- ④ 「生きがいにつながる地域貢
献活動の実践から」鳥取県退
職校長会 今後の課題・学習
習慣が定着してきた。指導者
の生きがいとなった。一方参
加者の減少と中学生指導者不
足が課題。

⑤ 「これからの退職校長園長会
の在り方を考える」学校支援
の実態から」島根県退職校
長園長会 今後の課題・学校
とのより良い関係づくり・無
理強い、押しつけ、押しかけ
ない・教育行政との連携も視
野にいれる・できることをで
きる範囲で応援。

戸張会長の講評・研究テー
マをもって臨まれている斬新さ
に敬意を表す。退職校長会の
活性化は支部創生が根幹。

近畿地区

期日 28年10月28日（金）
会場 ホテル
グランヴィア京都
出席者 90名

国歌、全連退会歌「光かかげ
て」を斉唱後、来賓の門川大作
京都市長と在田正秀京都市教育
長から挨拶があった。元教育長
の経験のある市長からは、教育
長時代の苦勞されたお話に全員
聞き入っていた。

【研究協議】

協議題「組織の発信力を高める
取組とその課題について」

発表 和歌山県、京都府
紙上发表 奈良県、大阪府

滋賀県、兵庫県
和歌山県からは、「発信力」
はいわば「伝える力」であり、
伝えるべき内容の意義や魅力と
一体でなければ「組織の発信
力」にはつながらない。会の存
在意義や魅力のある取組を展開

し、広く、日常的に発信しな
ければ会員を確保することは難
い」と具体例を出して力説された。
京都府からは、ここ数年「組
織の活性化」について取り組ん
で来たが、今年は創設50周年記
念の年でもあり綾部市で開催さ
れた式典・総会・祝賀会に取り
組んだ。特に創設50周年記念誌
は多くの会員の投稿があり充実
した冊子ができ、組織の発信力
に繋がったと報告があった。
紙上发表の4府県からも具体
的な内容の報告であった。
来年、滋賀県で開催される協
議題は「新入会員の入会促進と
若手や女性を積極的に登用する
方途について」に決まった。

【演舞鑑賞】京炎そでふれ

「学生のまち」京都。毎年秋
には平安神宮・岡崎一帯で京都
学生祭典があり、多くの学生達
の舞いで埋め尽くされる。懇親
会の前に、京都府内大学生6名
による演舞を鑑賞した。
各府県から90名の参加のご支
援により盛会裏に幕を閉じた。

東海北陸地区

期日 28年11月10日・11日
会場 グランヴェール岐山

(岐阜市)
出席者 28名

岐阜・後藤忠喜実行委員長の
歓迎の言葉の後、福井・西輝昭
協議会長の挨拶に続き、全連退
本山高美常任理事から挨拶が
あった。

一 研究協議

「会員に関わる入会及び退会
の現状について」

会員の入会・退会については
最も身近な課題だけに、今回は
正面切って協議題にした。

事前に各県の現状をアンケー
トで調査をして資料作成をした。
それを基に各県が具体的な実情
を説明し、課題追及を行った。

そうした中で、以前と比べて入
会しない人が増えている現状を
直視した。やむを得ない未加入
者(体調不良・再任用等)とも

う少し積極的に働きかけをし
たい未加入者(組織に縛られ
たくない、現職時代と違う生
き方をしたい等)があること
が明確化した。後者について
現職校長との関わり(機関誌
の配布、現場支援、交流会、
退職予定校長への多様な働き
かけ等)を重視すると共に、新
会員が入会して良かったと言
える魅力ある会を創る努力を
惜しまないこと等に取り組み
必要性を確認しあった。

二 情報交換

「各県が特に力を入れて取り
組んでいることについて」

会報の発行、教育支援活動、
支部独自の特色ある活動の推進、
「教育の日」制定への取り組み、
退職校長との交流会等々。どの
県も会員の所属感・存在感を高
め、魅力的な会の運営に努めて
いることを知ることができた。

三 教育視察

日本遺産第1号「信長公のお
もてなし」が息づく戦国城下町
岐阜(居館跡・岐阜城等)を専
門官の案内、説明で視察した。



学校の応援団でありたい

秋田県退職校長会

会長 佐藤 重義

本会は、それぞれの地域に
あった特色ある独自の活動を展
開する、鹿角、大館北秋田、能
代山本、男鹿、潟上南秋、秋田、
由利本荘にかほ、大曲仙北、横
手、湯沢雄勝の10郡市、会員数
1704名の連合体です。

県としての主な事業は、5月
の総会、7月の各郡市会長・事
務局長会議、10月の研修大会、
年2回の会報(A4判16頁)発
行です。特に、研修大会は、各
郡市からの「発表」に力点を置
き、今年度(第38回・10月22日
開催)は、鹿角の「地域で子ど
もを育てる」バス図書館活動を
通して」と、由利本荘にかほ
の「地域起こしのささやかな試
み」西滝沢子ども水辺協議会へ
の関わりを通して」の2題で、
いずれも、土地柄を生かしなが

らの子ども達や地域との関わり
の中、郷土に根ざした・郷土愛
にうち満ちた活動を展開し続け
ているものでした。

次に、本会の力点事項として

「現職との交流」があります。
これは、現職校長の悩みや課題
等に接しながら忌憚のない意見
交換をし、解決の方向や方法・
取組策等を探り出そうとするも
のです。ここでの本会員の役割
は、経験からの参考程度は述べ
ながらも、相談相手に徹するこ
とにあります。この他にも、教
育を語る会や教育ボランティア
活動、学校活動人材バンク等と
関連した活動もしています。

そして、全国学力・学習状況
調査連続上位について、私達が
これまで取り組んだ課題や実践
等をもう一度精査し、改めて、
客観的な立場で記録することで、
今後に生かすべく準備を進めて
いきます。また、形骸化する「あ
きた教育の日」への取組もあり
ます。いずれにしても、良い意
味での「学校の応援団」となれ
るよう努めています。

宮城県退職校長会

の活動状況

宮城県退職校長会

会長 泉 晋

昭和40年10月30日に「宮城教育親和会」を結成し、即刻全国連合退職校長会に加入、昭和48年6月に「宮城県退職校長会」と改称して、今日に至る。

現在は14支部、2160名で組織され各支部活動の充実を図りながら、各種事業を推進してきている。創立以来50年の歩みを顧み、本会活動の充実発展に尽力された先輩諸氏と指導支援を賜った関係各位に感謝し、今後の更なる充実発展を期し、記念総会並びに記念事業を実施した。

記念総会では、2団体と個人85名に感謝状を贈呈した。また記念事業として、創立50周年記念特集号会報（宮城県退職校長会のあゆみ、「東日本大震災」に伴う対応、「みやぎ教育の日」条例制定までの経緯、元支部長の創立50周年におもう等を

特集）を発行した。

主な活動の一つは、「みやぎ教育の日」の事業である。あらゆる機会を捉えて趣旨の啓発に努めながら、市町村及び関連団体との連携を図り、県全体への普及に努めている。宮城県退職校長会が推進母体となつて、みやぎ教育の日推進協議会（31団体）を結成し活動しており、今後さらに充実発展されるものと考えている。

二つには、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、現職小・中学校長会それぞれとの教育懇話会を実施し、情報交換・情報共有を図りながら、本県教育の振興への寄与を目指して活動している。さらには、小・中学校長会など教育団体に対する助成活動や会報や通信の発行などの広報活動、新入会員懇話会開催などの事業を展開してきている。

新規退職者の入会率増加や会員の高齢化に伴う組織強化の課題等を踏まえ、本会の充実発展を期し、次の半世紀に向けた新しい一歩を踏み出している。

学校支援・子ども支援

・地域支援

三重県退職校長会

会長 鈴木 美文

1 組織

発足してから来年で60周年を迎えます。昭和40年発足の全連退には当初から加盟し、全連退三重支部を経て、現在の名称になつていきます。21支部でそれぞれ理事を置き、理事会を組織します。役員会（年5回）理事会（年2回）総会（年1回6月）を定期的に開催しています。

理事会・総会では、地域の民芸文化財・史跡専門委員等による記念講演を実施しています。なお、総会は会員の意識高揚を目的として隔年で地域開催を始め、参加者も従来の15倍と増しております。

2 活動

①「学校支援・子ども支援・地域支援」を進めるため、本年度は県下21支部の理事で9月から12月の教育活動及び支援活動を調査し、「三重の教育

振興を期する月間」として、

県・県教委・市町・市町教委・各教育諸団体に働きかけを行い、この期間に行われている教育的行事及び支援事業を発展・充実させるよう働きかけをしたいと考えています。

②毎年文集「いきがい」を発行し、各支部の活動状況報告や会員相互の連携を図っています。

③本年度から、「会報」を発行し、情報の早期伝達や会員相互の出会いの場づくりを進めます。

④県教委課長との懇談会

毎年実施しており、昨年は「貧困児童生徒の対策・学力テスト・三重の学力向上県民運動」について話し合いました。

⑤県小中学校長役員との懇談会

昨年度は「人事評価・若手教員の育成・女性管理職・教育支援事務所の活用」について話し合いました。

⑥県・県教委・市町・市町教委へ「教育の日」制定の要請。

教育支援はどのようになろう！

教育みおつくし会

会長 佐藤 榮一

教育みおつくし会は大阪市の幼稚園、小、中、高等学校及び特別支援学校の退職校長会として活動しています。

大阪市では教育改革、改編がめまぐるしく行われています。現場の校長先生、教職員は大変苦勞されており、本会として教育支援により対応しているところですが、何もできていないと苦惱しています。

市立幼稚園の民営化がすすめられています。永年にわたって培われてきた公教育が失われる危機にあり、大きな問題をかかえている民営化です。公立幼稚園の存続を強く望んで取り組んでいます。また各校種でもそれぞれ大きな課題があり、解決のための活動支援ができるようにしているところです。

本年4月より大阪市の特別支援学校12校が大阪府に移管さ

れ、今後の退職校長は「春秋会」に移ることになりました。

私たち教育みおつくし会の会員活動は大切です。会員の高齢化と活動の縮小などの問題が出ています。また若年の会員の活動参加を望んでいます。

活動の中心となっているのは会報「教育みおつくし誌」年2回の発行、バスによる研修旅行の実施、教育支援の具体的方策の検討及び実施があります。部活動として美術部は毎月定例のデッサン会と11月中旬には「教育みおつくし美術展」を開催、会員の作品を広く市民に鑑賞してもらってまいります。

こうした活動もやりづらくなってきました。本会の事務局は会長宅であり会議の場所及び資料保管など難しい課題が多くあります。さらにこれからの教委との在り方も課題になっています。

今後も教育みおつくし会の進展に努力して参ります。ご支援の程お願いします。

静動の五十年 誓いも新たに

愛媛県黄鳥倶楽部

代表世話人 仲田 正夫

本会は、県高等学校校長協会の会員であった者で組織する団体で、昭和42年に発足。退職した校長は全員加入しており、現在270余名の会員を擁している。

「黄鳥倶楽部」という名称は、退職を迎えたといってもまだまだ嘴の黄色い雛のようなもの、との自戒の意味を込めて命名されたと伝え聞いている。

今年度の春の総会・懇親会は、発足50年の記念式典を兼ねて5月22日(日)、「いで湯と城と文学のまち」松山市で、例年以上に盛大なものとなった。

物故者並びに熊本地震犠牲者に対する黙祷の後、総会では、会務報告や会計決算のほか、長寿お祝いの贈呈などが行われた。総会資料には会員全員の近況メッセージなども添付されており、欠席者にも、後日送付されている。

その後、50周年記念の目玉として元教育長3氏によるスピーチが行われた。様々な教育改革や水産実習船「えひめ丸」事故など、内外ともに激動の教育界を先頭に立って牽引されてきた

ご苦勞や裏話も飛び出した。懇親会でも終始和やかな雰囲気の中、親交を深めることができた。なお当日、熊本地震災義援金を募ったが、全連退総会の際、熊本県の大森会長にお渡しすることができた。会長さんのご自宅も住めない状況とのこと。

会員だけの秋の総会は、10月23日(日)に開催。11月には、第22回白秋会展が、6日間にわたって開催された。これは会員有志による趣味の会で、還暦、古希を過ぎても、絵画・書道・写真・陶芸など、様々な分野にチャレンジし続けている姿に勇気づけられている。

また本会では、ゴルフコンペの開催や「教育の日」の支援を行うなど、地道ではあるが着実に歩みを続けている。

感謝を込めて

熊本県退職校長会

会長 大森 勲

今年度は、年度初めの4月に「熊本地震」にみまわれ、大変な1年となりました。余震は今も続き、1月末で4200回を超えています。ただ、全国連合退職校長会戸張敦雄会長をはじめ、全国各県退職校長会のみならず、温かいお見舞いの言葉と心のこもった義援金をいただき、大きな勇気となりました。心より感謝申し上げます。今後は「支えあおう熊本 いま心ひとつに」をモットーに頑張つてまいります。

県総会など事業のいくつかが地震のためやむなく中止となりましたが、そんな状況下でも、「くまもと教育の日」にちなんだ熊本市退職校長会の、現職校長会・PTAとの共催による児童・生徒も参加した「くまもと教育・文化フォーラム」をはじめ、各郡市等の教育の日に関わ

るいろいろな催しは、今年度も素晴らしい活動を見せてくれました。また、天草郡市や鹿本郡市をはじめ、学校統合の進む中、学校の歴史を記録に残すという「各地区の教育の歩み」を記録した冊子づくりが県下で行われています。学校は、地域にとつての精神文化の中心であり、心のよりどころでもあります。先輩方が築いてこられた教育遺産を後世に残すことは大切なことだと認識しています。

その他にも、県下13の各郡市退職校長会では、地域貢献活動である「八代に桜を植える会」活動や「学校支援ボランティア活動」なども盛んに実施されたのは心強いことでした。

熊本県退職校長会では、今後「誇りと絆を大切にしたい風格のある退職校長会」をモットーに、それぞれの郡市等退職校長会に設置された5つの専門部活動を中核に、組織の活性化を目指して更に充実した活動を行って参る所存です。

本年度の活動

沖縄県退職校長会

会長 宣寿次 政昭

本会は、「本県教育の振興並びに郷土の発展に寄与すると共に会員相互の親睦と福利の増進を図る」ことを目的に平成元年3月に結成され、平成10年の〈設立十周年記念式典・祝賀会〉等を経て、次年度、平成30年に設立三十周年を迎えます。現在5地区で会員は529名です。

一 善行児童生徒表彰

本会の活動の中心は、今年度で18年目を迎える「善行児童生徒表彰」事業です。県内の全小中学校の校長先生に善行行為の児童生徒を推薦してもらい、県表彰、地区表彰を通して「善行活動の普及と健全な児童生徒の育成」に取り組んでいます。今年度は個人12名、9団体の表彰を行い、善行行為の子ども達を激励しました。

二 「教育の日」制定の要請

教育の日の制定には、平成26年4月、県の「美ら島おきなわ教育の日」の制定以来、県内の18市町村が「教育の日」制定を行っています。

未制定の自治体には今年度も要請活動を継続して取り組みました。8月に県役員が手分けして未制定の4市町村を訪問し、制定の要請を行い、12月には県選出の2国会議員への制定の要請を行いました。

三 教育関係団体との連携

県教育長、県校長会、県P連との教育懇談会は今年も開催いたしました。役員紹介、事業説明、情報交換等、連携強化に繋がっています。また、退職公務員連盟との連携も大切にしています。

新会員加入促進、未組織地区の会結成等、課題はありますが、これからも取組を継続していきたいと思えます。

中教審答申の情報

教育公務員特例法

第一部を改正する法律の概要

総務部 木山 高美

趣旨

大量退職・大量採用の影響により経験の浅い教員が増加する中、教育課程・授業方法の改革への対応を図るため、教員の資質向上に関わる新たな体制を構築する。

1 教育公務員特例法の

一部改正

(1) 校長及び教員の資質の向上に関する指標の全国的整備

・ 文部科学大臣は、以下に述べる教員の資質の向上に関する指標を定めるための必要な指針を策定する。

・ 教員等の任命権者（教育委員会等）は、教育委員会と関係大学等とで構成する協議会を組織し、指標に関する協議等を行い、指針を参酌しつつ、校長及び教員の職責、経験及び適性に応じ

てその資質の向上を図るための必要な指標を定めるとともに、指標を踏まえた教員研修計画を定めるものとする。

(2)

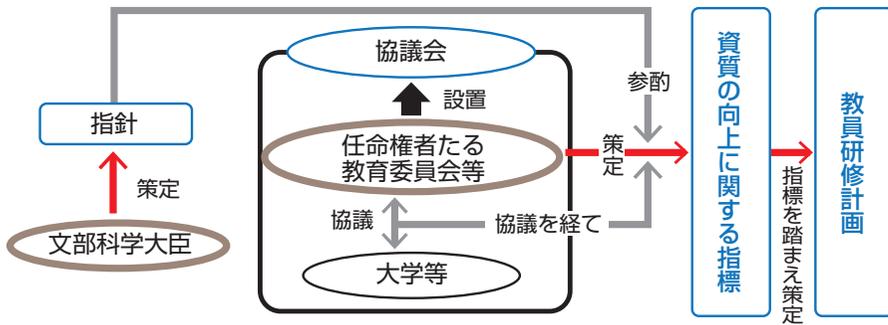
十年経験者研修の見直し
十年経験者研修を中堅教諭等資質向上研修に改め、実施

時期の弾力化を図るとともに、中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質向上を図るための研修とする。

2 教育職員免許法の一部改正

普通免許状の授与における

新たなスキーム（イメージ）



大学において修得を必要とする単位数に係る科目区分を統合し、外国語の小学校特別免許状を創設する。

3 独立行政法人教員研修センター法の一部改正

業務に、教職員その他の学校教育関係職員に必要な資質に関する調査研究及びその成果の普及、任命権者が指標を定めようとする際の助言並びに教員免許更新講習の認定、教員資格認定試験の実施及び教育職員免許法認定講習等の認定に関する事務を追加する（文部科学省からの業務移管）とともに、その名称を「独立行政法人教職員支援機構」に改める。

4 施行期日

平成29年4月1日
（ただし、2については平成31年4月1日、3の一部については平成30年4月1日）

中央教育審議会（第109回）

傍聴報告

教育課題委員長

田中 昭光

平成28年12月21日、中教審は学習指導要領の改訂について審議結果をまとめ松野博一文部科学相に答申した。

改訂のポイントは、急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるための方向性で学校の教育課程を充実。

○「ゆとり教育」か「詰め込み教育」かといった二項対立的な議論には戻らない。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、学習内容の削減を行うことはない。

○学校教育のよさをさらに深化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。「アクティブ・ラーニング」の視点は、知識が生きて働くものとして学習され、必要な力が身

に付くことを目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う。
○こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う。

【社会に開かれた教育課程】

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通してよりよい社会づくりを目指すという理念をもち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確にしていくこと。

③ 教育課程の実施に当たって地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を深め、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
各教科等で育む・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び

福利厚生情報

超高齢社会における

諸制度の展望

生涯福祉部長 岡野 仁司

同じ薬局利用で窓口負担軽減

～お薬手帳で～

厚生省は2016年度の診療報酬改定で、患者が同じ薬局を複数回訪れた際、薬の名称や服用回数などを記録する「お薬手帳」に関する窓口負担を引き下げる方針を固めた。

患者が「かかりつけ薬局」を決めて服用歴を自己管理しやすくする狙いがある。

お薬手帳は、主に薬剤師会などが発行するB6サイズの冊子である。薬の重複や悪い飲み合わせを避けるため、処方された薬の名前やアレルギー歴、副作用歴などが記録されるものだ。

現制度では、薬剤師が薬の処

方情報を手帳に記入すると、診療報酬の「薬剤服用歴管理指導料」として1回に付き410円が加算され、患者には原則3割の120円の窓口負担が生じる。

厚生省などによると、手帳の所持や持参は任意のため、窓口負担を嫌う患者が交付そのものを拒否するケースもあり、薬の処方全体の約2割は、手帳への記録がないまま行われているという。

2000年に診療報酬加算の対象になって以来、手帳は薬剤師会のほか民間の薬局も独自に発行しており、全体の部数は厚生省も把握していない。異なる薬局に行くたびに交付を受けて何冊も持つ人が少なくないとみられ、「服用歴を自己管理する観点から望ましくない」との指摘もある。このため、来年度からは手帳交付を受けた薬局を複数回訪れた場合に限り窓口負担を軽くし、同じ薬局を「かか

りつけ」として使い続けるメリットを持たせる。負担額の引き下げ幅などは今後検討することになる。

介護保険負担増を閣議決定

～一部の高齢者は3割負担～

政府は2月7日、「地域包括ケアシステム強化法案」を閣議決定した。

一定の所得以上の高齢者が介護サービスを利用する際に支払う自己負担割合を、2018年8月から3割に引き上げる介護保険法の改正案や、障害者総合支援法の改正案、社会福祉法の改正案などが含まれる。

厚生省によると、介護サービスの自己負担が3割に引き上げられるのは、現在2割負担している人のうち、単身者の場合で年収340万円（年金収入のみの場合344万円）以上、夫婦世帯では年収463万円以上となる、対象

は利用者の約3%（約12万人）という。

塩崎厚生相は1月7日の閣議後記者会見で、「3割負担の対象は特に所得の高い人だ。制度改正では、低所得者の負担を据え置くなど様々な配慮をした」として理解を求めた。

高齢者の介護の必要度を示す「要介護度」を維持・改善した市町村を財政的に支援する仕組みも、2018年度から導入する。

要介護度を低く保つことでサービス給付を抑え、40歳以上の人が負担している介護保険料の上昇を抑えるのが狙いだ。

2017年度中に具体的な評価指標を決める。

また、リハビリ職と連携した介護予防の取組状況や、個々の利用者の介護計画が適正かどうかを専門職が検討する会議の開催状況などを評価対象とする見込みだ。

組織の拡充に努めよう

平成28年度の「加入状況調査」に書き添えて頂いた、各都道府県の組織拡充への取組の実践事例を整理して、現行の「入会へのお誘い『七つの努力』」を見直し **新・入会へのお誘い** としてまとめました。

これを参考に、各団体の現状等を考慮され、組織の拡充に向けて一層のご協力(努力)をお願いいたします。

新・入会へのお誘い

- 1 人脈を生かし、“傾聴”に心がけながら戸別訪問や学校訪問に努めよう
- 2 会報、全連退情報、リーフレット等を活用し、活動の理解を深めよう
- 3 地域ごとに魅力ある企画・対外的にも見える事業の推進を通し、生涯学習の場として活性化を図ることに努めよう
- 4 校園長会との交流・懇談の機会をいっそう活発化しよう
- 5 早期に退職予定者の把握に努め、地域独自の「入会案内(仮称)」を作成、配布してみよう
- 6 校園長を準会員・賛助会員とする制度を設けてみよう
- 7 全連退発行の図書・ホームページ等を活用しよう

※ 全国連合退職校長会ホームページは「全連退」検索で見られます。

地方の会報紙より

福島県公立学校退職校長会

「松風」第160号

植物の力をいただく

副会長 新國 正明

日々、自然いっぱい山の懐に抱かれていて、そこに育つ多くの植物に気持ちがあみまします。

安らぎさえ感じる。豊かな花々の色や香りもまた、心と体にプラスの効用を与えてくれる植物の持つ不思議さに驚かされます。

そんな時、偶然、新聞で、植物の効用を福祉施設に取り入れ始めた『園芸療法』に初めて出会った。早速パソコンで検索する。横浜に月2回実施している研修会がありすぐ参加することにした。その間、アメリカの短期研修にも加わった。

その後、広島市原爆ドーム近くの専門学校で1年間学び大いに刺激を受けた。

2003年、会津美里町の眺

望のいい場所に3ヘクタールの畑を借りて、仲間と共にその年の9月、菜の花の種蒔きを開始した。

翌春、数ミリだった種たちは見事に、雪の中で育ち、畑一面を黄色に染めてくれた。カメラを持った人、かくれんぼする子供たち、ピザのトッピングに花を摘む人まで現れ、楽しみは地域に広がった。

2010年、町内外の友人の輪が広がって園芸療法がテーマの「花っこカフェ・クラブ活動」がスタートした。人と人を繋ぐ小さな自分育ての場だ。園芸療法クラブ、絵手紙クラブが中心。苔玉作り・藍染・環境フェスタでのケナフ紙漉き・福祉施設を訪問して手前うどんを振舞うなどワクワクの体験活動と季節の草花に自分流の言葉と添えた下手でいい作品作りの絵手紙。ランチは、地元野菜豊富な、スタンプ手作りのご馳走を食べながら、講師を囲んで会話も弾み楽しいひと時になった。

さて、何ということでしょう！

次の年の3月発生した大震災・原発事故。カフェどころではないぞ！放射能は目に見えないだけに会員に不安は広がり「これからどうする?」「このような時だからこそ、みんなで励まし合いたい、思いを繋いでいこう。」とまとまり、早い復興を願いつつ、予定の5月に花っこカフェのクラブ活動は開始できた。

今、社会では、病院・施設等で取り入れている『園芸療法』だけでなく、一般の人たちの活動として『園芸福祉』の考え方の活動が広がって来ている。

植物は人を強くします。植物は人を優しくします。植物は心に潤いを与えてくれます。

鳥取県退職校長会会報

「積雲」第86号

団塊世代の「おやじの会」

鳥取 古田 久憲

「待つとるで！」と村の先輩の声。村には団塊の世代の先輩

が何人かいて、私の退職を待つてくれていた。数年前に「町内会おやじの会」なるものを立ち上げて、よからぬ活動を始めた。スローガンは「おやじ同士の親睦を図るとともに、町内会の発展のために惜しみなく協力する元気なおやじになろう」とし、会則もつくり、村から補助も貰った。

活動内容は、村祭りや納涼祭、校区の運動会等の応援団はもろんのこと、ペタンクで汗を流したり、公民館に門松を作ったりしては、最終的には飲んで語る。飲むと、またよからぬ計画が生まれる。

おやじの会と言えば「焼そば」が十八番だったが、昨年から「そうめん流し」にも挑戦。面影山から竹を切り出し、割って、磨いてコースを作る。「もつとスリリングな流れに・・・」などと言合うのが面白い。意外だったのは子どもたちの反応。「すぐ飽きるで」の予想に反して、食いつく時間が長く、自

分達ができることを、無理なく、楽しみながら、長く続くよう、元気な地域のちよいワルおやじでありたい。「私達は地域に生かされている」ということを次世代につなげていくために。

新潟県公立学校退職校長会

「会報」第51号

散りもみじ

東蒲支部 神田 康雄

京都の祇王寺は散りもみじでも有名だ。紅葉の終わりにみじの落葉が境内を一面に被い古都の風情を漂わす。拙宅の周囲も、植樹や自生のもみじが秋を彩る。しかし、こちらは散りもみじなどと風流なものではなく、厄介落葉なのだ。除去に妻が汗するのが拙宅の晩秋の風物詩。世の中、同じ事象や事物でも全く正反対の評価を下される例が多い。今、八十路に立った小生、退職後20年。その間に引き受けた種々の仕事は全てが恩返し。至誠一途に勤め上げ、

成果もみたと自負している。生来、人から頼まれそれを成し遂げ喜んでもらうことが生き甲斐の男だ。しかし、八十路に立つて考える。その成果は、人にとって散りもみじだったか厄介落葉だったかを。独り善がりではなかったか。雨の日に静かに振り振り返る八十路の男だ。

大分県退職校長会

「会報」第167号

教え子に教えられる

豊後大野市 首藤 弘明

団塊の世代が定年を迎えている。中学校卒業期は「金の卵」と呼ばれ、関西方面へ集団就職列車で旅立って行った。その彼らが今の経済大国をつくったと言っても過言ではない。井沢八郎の「ああ上野駅」がヒットしたのもその頃であった。

最近、古稀の同級会に招かれた。あれから55年、いろんな出来事もあったと思うが、充実感

溢れる好々爺になっている姿に接し、つくづく教師冥利に尽きると感じた。

中には、楽しいことばかりでなく、逆縁で子どもに先立たれたり、連れ合いが亡くなったとか哀しい話題もあった。子どもや孫自慢になると、みんな顔が緩んでくる。

そんな談笑の中で、ひとりの女性が「中学1年生の国語の時間に、この短歌を明日まで暗唱してきなさいと、宿題に出されました。それを今でも覚えています。」と語ってくれた。周りの同級生はびっくり仰天、彼女に感じ入った。正岡子規の歌である。それから国語が好きになったとも。

多分、翌日の国語の時間に指名されて、みんなの前で発表したものと思われる。賞賛を浴び誉められたものと思われる。教育の原点を教えられたような気がした。

「私はきょうだいが多かったので、高校にやってもらえませんでした。」と誰を恨むでもな

く、さらりと言つてのけた。それをバネにして努力したものと思われる。

戦後70年が過ぎた。平和であることが当り前のようであり、極く自然であった。戦争を知らない彼らにとつても、古希を過ぎたこれからの人生やその家族にとつても、平和で幸せであるよう願わずにはいられない。

鹿児島県退職校長会

「会報」第177号

今、伝えたいこと

鹿児島市 上田 聡

仕事の一環として、夜間に学校に向き、天体観望を実施する機会が年間10数回である。様々な年齢の子どもたちに、天体を通して科学する心を育てるとても良い機会であると私なりにとらえている。その際に、提示する教材としての映像を撮影することに熱を上げている。晴れて月明りのない夜は、必ずといっていいほど撮影に出かけ

ている。年間70夜くらいだろう。霧島の私設観測所に行くことも多いが、最近は県内外の景観豊かな場所をめがけて撮影行している。そこで感じるのは、季節感や空気感というか、その土地の独特な自然と人の生活の織りなす情景である。私も今だから気づいたことかもしれないが、感じ入る景観を映像に写しとめて、子どもたちや保護者へ伝えていく。自然への畏敬の念を基本にしてもらいたいという思いが強い。人の生活は、自然との関わりが基本であることに気づいてほしいからである。

千葉県退職校長会

「会報」第79号

先生と呼ばれる

「幸せ感」

千葉市 飛鳥井航一

「先生、今日のお話楽しかったです。テープに入れてあるので家でも聞いてみます」。「先生、今日のお話を聞いて、何回も涙

を流しました。ありがとうございました」。私が講師を務めていた歴史講座が終わった時に、このような言葉をいただけるとがある。いまだに、先生と呼ばれる幸せ感を味わえる瞬間である。

私が高齢者の歴史講座を担当するようになってから今年で6年目を迎える。主にNHKの大河ドラマを題材に、楽しい歴史の話をして欲しいという依頼であった。

年間16回、1回2時間の講座である。受講者は通年26人である。現役の教師の頃とは違い、教科書を終わらせるといふ制約がなく、全く自由に話をする事ができる。大河ドラマに登場する歴史上の人物に焦点を当て、その人の生きざまを通して、人生の儚さや喜びを伝えていこうと取り組んでいる。

60歳以上の受講者にはそれぞれの厳しい人生があったと思う。支えきれないような荷物を背負っている人もいる。この講座が少しでも心の癒やしになって

欲しい。そんな思いを込め、義経や細川ガラシャ、幸村等の儚くも短い人生と感動の史話を語っている。

しかし、2年前に、体調を崩し入院を繰り返すということがあった。講座にも行けないという事態にもなったが、受講者や主催者の好意で、1、2回の欠講で済んだ。その後、完全ではないが、体調も少し落ち着き、講座を続けることができていた。昨年度の講座終了日には男性の受講者から、次のような嬉しい手紙をいただいた。

「先生のお話を聞きながら、再度各シーンのビデオを見ると、また新たな感動が伝わってきました。ビデオを見ながら何度涙したことでしよう・・・」

現在は、受講者たちで作ってくれた同好会が2つできている。不思議なことに、時々私を苦しめる強い痛みも、講座中には出ていない。先生と呼ばれる幸せ感に浸りながら、講座は私にとって第二の人生の生きがいになっている。

鳥取県退職校長会

「積雲」第85号

芝桜が育む地域の絆

日野 山本 武史

四月中頃になると、近隣や町外の方から「今年の芝桜はどうですか。」「芝桜の見ごろはいつ頃がいいですか。」等の問い合わせがある。また、近年、報道機関で紹介されたお陰で郡外や県外の訪問者も増えだした。



来訪者は、斜面一面に咲いたハート型の芝桜に圧倒され、田植え前の水面に映った逆さハート型の芝桜に感動される。

「管理が大変でしょう。」とか「地域の皆さんで世話をされることは、素晴らしいですね。」という言葉に一年間の管理がねぎらわれる。

平成12年10月6日の鳥取西部地震で崩れ落ちた下黒坂農村広場の斜面を活用し、6年前、面積1200㎡に1万3000株の芝桜を植え付けた。

芝桜を育てる作業は、開花前の草取り、花が終わると除草、消毒、追肥、枯株除去、株の補植等毎月のように地域総出で世話している。

地域住民の想いをハートに表した芝桜。この地域に次世代までもハート(愛)が引き継がれていくことを願いながら今年も作業している。



青森県退職校長会

「会報」第85号

素晴らしい出会いに感謝

上北支部 下山恭美子

園児への英会話の指導に向向いている友人からの紹介により、1系列・3つの保育園から、マジックの演技の依頼を受けた。フラダンスのボランティアに出向いた折、司会の合間にアクセントにでもなれば……と習い

始めて2年半、以来、求めに応じて仲間と、また、単独でステージに立っている。

その日、準備を終えステージ脇で待機していると、保育士の声に導かれての二団の足音がひとしきりであり、後、開幕とともにキラ輝く園児たちの興味津々のまなざしに圧倒された。私語のざわつきもなく、静々と集合できたことにまずびっくり！でも、演技ごとにあげる歓声に気をよくし、もっともっととせがまれる声をなだめ、無事終了。

英会話教室2クラスに招かれ参加したあと、ホールに準備された園児たちと一緒に食事風景もまた静々と楽しげであった。

名残惜しげに握手を求められ、ズラリ並んだ玄関での見送りの中感動いっぱい3日間を終えた。もちろん、ボランティアだったのが、最後に園児代表から花束を頂いた驚き！何よりも純真で、素直な言動の園児たちとの楽しいひととき。そして、小さいながらも一人の人間としてのルールを守った立派な振る舞いの姿との嬉しい出会い。その

指導に当たっておられる園長先生初め、保育士の方々に感謝の気持ちでいっぱいになった。

教育からも、まして、子育てからも程遠くなった昨今、素晴らしい子ども達との出会いに明るい未来を垣間見た3日間だった。

母と孫と母と

吉田地区 大坂 蘭子

一冊のノートに、退職したら、あれもしたい、これもしたいと綴った。ハワイ旅行は先延ばし中だが、現在、楽しんでいることが三つある。

一つ目は、路地苺の出荷。「任せたよ！」という夫のひと声で、宵つ張り朝寝坊の私が、早朝五時から苺摘み。我ながら感心する。人様からお金を頂戴する以上は、粗相があつてはならない。選別はとりわけ念入りに。やっとの思いでパックに詰め、シールを貼り、コンテナに並べ、いざ直売所へ。ドキドキ

&わくわくだ。

二つ目は、集団登校の見守り隊。以前から憧れていた。学校までの二十分間、毎朝孫と一緒に楽しい発見。「あつ、蛇だ!」「蛙が死んでる!」「紫陽花がきれい!」たわいない会話で、距離が近くなる。心癒される素敵な時間。帰りは早足でウォーキングタイム。あんなに痛かった膝も腰も、今や絶好調だから不思議だ。

三つ目は母の施設に通うこと。往復二時間を平日の日課に組み入れた。五十年前に父を看取り、職探しに泣いた母は「女も資格を持たんとあかん!」と常々私に説いた。三月末、退職辞令と表彰状を持参すると、「よう頑張った。」と涙目で褒めてくれた。世間話に洗濯、絵本やちぎり絵……。大したことはできないが、そう長くはないであろう母との時間を、大切にしたい。たまにノートを開いてみる。手つかずのあれもこれも……。予定も余白もいっぱい!三十八年分の感謝を忘れず、ゆっくり埋めていこう。

五反田だより(事務局)

平成28年度、広報部の業務は、会報第203号(本紙)の発行をもって、一応ピリオドを打ちます。

会員各位から一定の評価をいただき発行し終えたことに、細やかな成就感を味わっています。各都道府県退職校長会52団体も、優れた会報の発行に尽力されました。敬意を表します。

会報には、数多くの情報が掲載されています。「情報が正確に会員各位に伝わってこそ情報であり、伝わらない情報は一人よがりである」といわれています。

全連退はじめ各団体は、その情報が可及的速やかに各位の手許に届くよう努力をしています。

会員各位におかれては、各団体の会報等の編集・発行に携わっておられる方々への労いのご褒を秘めて熟読含味、ご批評くださることを願っています。

(T)

◇1月

- 10 総務部会
- 18 「年間紀要」編集会議
- 23 出版事業委員会
- 25 部長会
- 全連退運営対策会議

◇2月

- 2 「年間紀要」(初校正)
- 10 常任理事会
- 13 広報部会
- 14 「年間紀要」(再校正)
- 15 全連退「情報」147号発行
- 20 「年間紀要」(最終校正)
- 21 広報部会
- 22 総務部会
- 27 広報部会

◇3月

- 3 全連退「情報」148号発行
- 6 部長会
- 8 教育振興部会
- 9 出版事業委員会
- 13 教育課題委員会
- 16、17 副会長会
- 22 生涯福祉部会
- 27 部長会

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3~5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は平成29年5月31日までです。

送り先 メール info@zenrentai.org
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

平成29年度の理事会及び総会の日が決まりました。

理事会 6月1日(木)
総会 6月2日(金)
会場 江戸東京博物館

編集後記

○記録的な大雪を日本の各地に降らせた今冬もようやく終り、春の息吹きが感じられる季節になりました。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

○「都道府県だより」には各県共通した活動や特色ある活動が書かれています。参考にしていただければと思います。

○地方の会報紙からの記事も多く転載させていただきました。ご一読ください。

○本年度最後の会報を無事発行できました。今回も皆様方のご協力で、原稿が予定通り集まりました。ありがとうございました。

全連退会報(203号)

発行 平成二十九年三月十五日
発行所 東京都品川区東五反田

五二一三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三四四二八七六八

FAX 〇三三四四二八七六八

Eメール info@zenrentai.org

振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇

○責任者 戸張 敦雄

印刷 株式会社 信行社

電話(〇三)三三三三三六二一